

### feature interview

## DJ KOYA

『RED ZONE』の勢いは留まる気配ナシ！  
そしてDJ KOYAの勢いもまた誰にも止められないだろう。貪欲な姿勢に脱帽です。

■“RED ZONE”は4月からBX CAFEもオープンしていますが、気にしていることはありますか？

はっきり言って最初は不安だったけど、けっこうな盛況ぶりを見て「平日でも成り立つんだ」「ありがたいな」って思ってた。開いたばかりだから、3Fでやってる内容もオレはあんまり見れてないけど、これからもっともっと定着して、2Fとの違いとかも出していけたらなって思いますね。今はまだ、開いて2ヶ月くらいしか経っていないんで、3Fも開くことでパーティーが大きくなったってことでしか捉えてないけど、これから先にいるんなことを期待してるし、またそこを使って自分でもいろいろやりたいなって思う部分はありますね。もちろんメインフロアと全く変えていくつもりはないですけどね。もともと“RED ZONE”って「他とはちょっと違う」というパーティーじゃないですか。だから、そこはちゃんとキープしていくってことは頭に置いて、いつものスタイルは崩さずにやっていきたいですね。

■“RED ZONE”のどのような部分が「他とは違う」と思いますか？

まず、平日のパーティーだから、週末と比べると客層が多少違ったりしますよね。でもやっぱり、自分で一番気に入ってるのは音の部分なんで、簡単に言うと幅広いジャンルがかかることですかね。幅広いと言ってもオレの中ではHIP HOPだし、もっともっと広い視野で音楽を好きな人たちに発信するような空間を目指しています。平日と週末では、求められてるものが違うから、週末には出来ないことをやっていきたいですね。だから、音マニアなやつに来てもらいたいと言うか、週末では出来ない一味違った突っ込んだ部分を多少は強調してやっていきたいなって思ってます。

“RED ZONE”の今までの歴史を、前期、中期、後期という風に分けたとしたら、前期は自分も結構突っ込んでたけど“RED ZONE”の色を付けていこうとした段階だったから、けっこう突っ込んだことをやってたと思うんですよ。でも、長くやっていく中で、中期は守りに入ったというか、ノーマルスタイルになっていた時期があったと思うんですよね。それが、Seratoみたいなものが出てきて、最近また突っ込んだものを出していきたくて思うようになってきましたね。世界的な流れに沿っていくと、アメリカでもそういう風潮にあるし、それに倣って自分もやっていきたいって思ってるんで、最近また自分の色を出せてくるんじゃないかなと思いますね。

■“RED ZONE”でプレイしていて気を遣うことはありますか？

フロアを見るってのはDJだったら誰しもやることですよね。もちろん盛り上げなきゃいけない時間とかあると思うんですけど、オレの場合発信したいっていうのが凄く強いで、上手く伝えていきたいっていうのはありますよ。お客さんがドン引きなのに「伝えてんだよ」ってのは伝えたい人には入らないと思うし。そうではなくて、でもコアなことをちゃんと入れてるっていうのをプレイで表現するってことをいつも気にしてるかな。絶対盛り上がる曲は逆にかけたくない、と言うと支障があるのかもしれないけど、常にコアな部分と定番な部分とを上手く融合させることを考えてますね。ルールがあるわけじゃないけど、自分に嘘をつかないプレイをしたいっていうのは思ってます。でも、「これを聴けよ」って風に投げやりではなくて、「あのうまく交ぜてかけてくれて耳に入りやすいね」みたいな感じに

思ってもらえるように発信できればいいかなと。

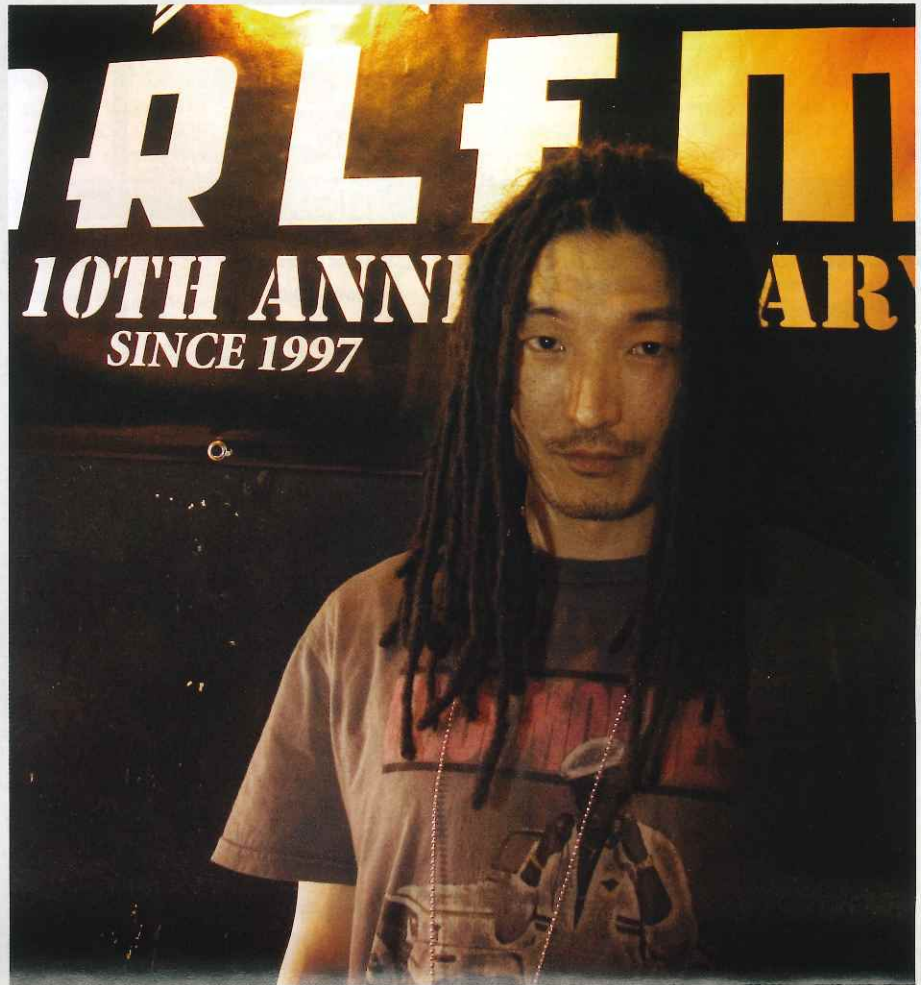
■やっぱりSeratoの存在は大きいですか？

デカいですね。推進してどうこうって言う段階ではないけど。今は、Seratoの機能を使ってループしたりとか前と後ろを入れ換えたりとかして、自分の使いやすいようにアレンジすることに凝ってるんですよ。今まではプロモでいち早くかけるとか、そういうことに夢中になってたんですけどね。今は前からあるものでも自分の好きなように変えて使えるっていうのがSeratoの良さだと思うんで、全部そういう風にして使っていきたいって思ってます。「どこを使おうかな」「どうやってアレンジしようかな」って考えることで表現力も広がるし。そういうのが好きじゃない人もいるのかもしれないけど、オレは今そういうことにハマっちゃってますね。リリックで繋いでたのを、ループさせることでもっともっと強調させたり。レコードは一回通り過ぎたら終わりじゃないですか。でもSeratoを使うと何回でもループさせられるから、それによって伝え方がもっと簡単になったりするんじゃないかなって。「え？針飛んだ？」って思っちゃうような人でも、家に帰ってよくよく考えると「だからこんな風にしてたんだ」って気付いてもらい易くなるのかなって思ってます。

Seratoを使うことで、オレの求めている深みが出し易いと思うんですよ。だから、常に新しいものをかけるというよりも、今までも必ずいつも使うようなHIP HOPのクラシックのものに、更にまた自分で手を加えることによって、前と同じようなセットでもまた違った味が出せるのがいいですよ。今は、ブレンドしたリアカベラをループしたりとか、完全にそういう形になっちゃってますね。今までは限られたレコードでしかできなかったから、そういった意味では凄くいいですね。最初はそれを地味にやってたんですけど、最近は派手にやっちゃおうかなって思ってます。だからと言って新譜を使わないというわけではなくて、新しいものはバンバンかけますけどね。でもその新譜でさっさと使って使ったりして。前より「この曲をどうやって使おう」って考えるようになりました。だから、ターンテーブルの前にいる間、前よりも忙しくなりましたよ。待つ時間があまりないというか、「次に取りかかります」って感じですよ。音を出したりするのもワンタッチで出来るんで、プレイしている時の面倒な作業が省けたりするわけじゃないですか。その分他のことが出来るし、プレイの幅が広がるんですよ。もっともっとショートカットするとか、もっともっと展開変えるとか、そういうことを前よりも重視できるし、ワンタッチでできることでいらぬストレスが省ける分、次の展開が考え易くなりました。曲の幅にしても何にしても遊びが多くなったというか、より“RED ZONE”らしさが出せるようになりましたよ。

■今後の展開で考えていることは？

このまま今まで通りにやっていくつもりなんですけど、その中でポイントになる転換期はあると思うんですよ。Seratoが出てきたのもその中の一つだと思うんですけど、音も同じだと思うんですよ。音楽の幅も広がっちゃったし、聴いているお客さんは取っつきにくい部分もどんどん出てくると思うから、それを自分の中で上手く消化して、打ち破って紹介できたらなって考えてますね。常に発信する立場でいたいし、その為にはリスクも背負っているいろいろ実験しなきゃいけない部分も出てくると思うんで、どんどんやっていこうって思ってます。



■“RED ZONE”の3Fでプレイしている若手DJを見ていて感じることはありますか？

オレみたいなプレイが好きだっていう子たちも少なからず居るし、今3FでまわしているDJたちは頑張ってるから、このまま一生懸命頑張ってくればいいって思ってます。思い入れも伝わるから、頑張ってるって欲しいっていうのはいつも思ってますね。そのうちSeratoでしかDJをしたことがないって若い子が出てくるかもしれないけど、機能っていっぱいあるし、オレもまだまだ全部を使いこなせてるわけじゃないけど、自分がカッコイイなって思えるように料理するっていうか、もっともっとできるヤツが増えたら、オレとしてはけっこう脅威かなって思ってますよ。今はまだ、Seratoをそんなに長く使ってるわけでもないから、全部が全部使いこなせてないと思うけど、もっと遊んじたらもっといろんな人の色が出たりするし、かけ方を変えるだけで曲がかぶるっていうのもフォローできるようになったりすると思うから、そういうところでもっと活性化すればいいんじゃないかなって思ってますね。

■最近注目している海外DJは？

BELLYってDJがいいって聞いて、聴いてみたいとは思ってますね。そうとう若いDJなんですけど、ロスの方で主流な派手なタイプで。NYに住んでるみたいなんですけど、NYにはそういうDJがあまりいないから、結局ああいうのがウケて話題になっていったみたいですよ。何回か聴いたことはあるけど、けっこう上手いんですよ。オレが聴いても、「そういう風にはできないな」って感じ。選曲にしても「それってキツいな」ってのもありますよ。ホントに、「さすがアメリカ」じゃないですけど、こういうヤツが出てくるかって感じですよ。最近やっとクラブに入れるようになったような年齢でそれかよ、って感じなんです。

例えて言うと、比較として出しちゃうのはおかしなかもしれないけど、DJ AMみたいな感じかな。今オレがやりたいなって思えるスタイルにホントに近くて、まさにそれかなって思えるようなプレイをするDJのうちの一人ですよ。最近自分の中でだいぶ気になって、チェックしてるDJです。Stretch ArmstrongにしてもDJ AMにしてもそんなんですけど、ずっとオレが好きなの向こうのDJって、はっきり言ってHIP HOPじゃなかったりもするんじゃないですか。

Stretch Armstrongは昔から一番好きなDJだけど、好きだからと言って昔と違うのは、昔はプレイに関しても全く同じことやってって思ってたけど、今はそうじゃないというか。彼のプレイをずっと見てきて、今に至ってる彼が好きというか、もう師匠って感じですよ。彼がやったことを今オレがやるわけでもないし、Stretchが好きって言っても、聴いた人たちは「あれ、HIP HOPじゃないじゃないですか」って感じだし、AMに関してもHIP HOPかって言ったら怪しい部分はありますよね。BELLYもそういう類いに入っちゃうのかもしれないけど、今“RED ZONE”でやりたいようなスタイルのDJって言ったらBELLYかなって。

■日本のクラブシーンがこの先どうなっていくか？DJ KOYAの立ち位置は？

オレのスタンスは今のままだと思うし、時と一緒に自分が成長して、その時にベストだなんて思うことをやっていけばいいかなって思ってるんで、絶対にこうなるとかいうのはないですけどね。なんだかんだ言っても、お店でやるのが好きだから今に至ってるわけだし、「次はこういう立ち位置で」っていうのは前ほどないですね。小さくてもいいから常に成長しながら、楽しい空間ができていけばそれがベストだと思うし、いつもその中でDJするっていうのが自分の理想だと思うんで、それを目指してやっていってほしいですね。昔ほど「オレはこうなってやる」っていう夢がないのかもしれないけど、継続してやってきていることは素晴らしいことだと思うんですよ。

HARLEMはそうやって10年間継続してきてるし、これからも同じようにお客さんも自分たちもスタッフも成長しながら、いいシーンが続けばなって思ってます。☑

